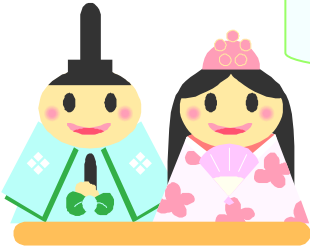


支援は御「縁」から「始」まります。私たち4人の支援専門員が「縁」あって支援をさせていただくことから「支援→始縁だより」と名づけました。



# 始縁だより

発行 平成26年3月号

暑さ、寒さも彼岸まで もうひと踏ん張り / ロウウイルスもインフルエンザも節分で追い払ったと思うので、元気に過ごせるといいですね。2月、3月は卒園、卒業と巣立っていく子どもたちの成長を楽しむ季節でもあります。

喜びの花を添えてあげる楽しみもあります。私たちも日々の積み重ねが、明るい未来につながる支援をしていきたいと思っています。



<ふきのとう>

## 20歳の旅立つ子どもに (柳子の日記帖より)

あなたがお腹に宿った時から様々な思いを持ち、十月十日を待ちかねて男の子、女の子、どちらでも元気で生まれて来ることを願い、生まれたときの感動は今でも忘れていません。

這えば立て、立てば歩の親心で見守ってきました。この期待にあなたはきちんと答えてくれました。反抗期も経験し、親がうっとうしい時期もあったけれど、今、こうして元気に巣立ちの時期を迎えてくれました。

あなたは今日を境に社会人の仲間入りをするのですが、社会人になると言ってもまだまだ未熟です。これから先も、いろいろな人に支えられてここまで来たことを忘れずに、頑張ってください。

社会に出ても、井の中の蛙にならず大海を泳いでください。仁淀川を下って太平洋に出て、大海を泳ぎ、また、鮎のように仁淀川を登って故郷に帰って来てください。その時まで親は、ふるさとで頑張っています。親の願いと期待は、元気で頑張ってください、いい人と巡りあってほしい、人との繋がりを大切にしてほしいと願っています。人との出会いの最初は挨拶です。きちんと挨拶ができる社会人になってほしいと思っています。

困難に立ち向かう勇気を持ち、失敗を貴重な財産に変えて成長してもらいたい。霊峰横倉山、悠々と流れる仁淀川を忘れることなく、あなたがどのような立場に立たされたときでも、親、家族はあなたの後ろにいます。振り向いた時に家族がいます。

無謀なことはしないで、命を大切に、社会人として頑張れとエールを贈る。

\*これは15年前息子の巣立ちの時に書いた日記です。親ってこんなものですよ。私たちが支援をさせていただいている方たちも、子供や兄弟の喜びや心配に一喜一憂していると思います。

支援させていただいている私たちも利用者様の心配や喜びにつき合わせていただきたいと思います。遠慮せずに気軽に声をかけてください。